

## 【令和7年9月3日 9月補正予算案知事記者会見】

### ● 令和7年度9月補正予算案

補正予算額は59億円、補正後の予算は5,280億円。補正予算額の内訳は、通常補正分24億円と財政的な補正35億円。

通常補正分24億円の内訳は、災害対策8億円、通常補正16億円。災害対策の予算は、令和5年の唐津での土砂災害と今年度の豪雨に対処するもの。

財政的な補正35億円の内訳は、決算剰余金の積立て30億円、国庫事業の精算5億円。

### NEXT 賃金UP プロジェクト+持続的成長の支援

ここ数年、賃金は上昇中。併せて、企業の価値も上げて生産性を高めることで、富の連鎖を生まなければならない。短期的に見ると、中小企業での人件費の上昇は、経営の苦しさにつながる可能性がある。そのため、生産性の向上にも取り組み、県の経済を前進させる政策が必要。

最低賃金は、かつて全国最下位だったが順位を上げ、今年は前年の956円から74円アップし1,030円になった。これまでで一番の上昇かつ国の目安より10円高く、福岡県との差も27円差まで縮小した。北部九州圏域での格差を解消し、雇用の流出を抑制しなければいけない。賃金UP支援チームを継続、関係機関と連携しながら支援する。

当初は小規模事業者向けだったが、第2弾から中小企業全般に拡大したところ、現在は1,220事業者に及んでいる。今回の支援は補助率最大4分の3、中小企業向けに施設整備など生産性向上の取組に対するもの。加えて、従業員がいない小さな事業者にも制度の適用を継続する。さらに、以下の取組にも補助金を支給する。

- ・外国人や女性の雇用促進をはじめ、多様な人材を確保するため職場の環境整備。
- ・物流問題対策。
- ・障害福祉事業所での工賃アップ。

賃上げと成長により、県内経済の好循環を作り出したい。

### 陶土価格高騰緊急支援事業

天草で採れる陶石の価格が高騰し、陶土価格も上昇。陶磁器産業を守るため、陶土価格が高騰した分を緊急支援することにした。

今後の上昇を見据え、土練機（どれんき）の導入や熱効率を上げるための窯の補修など、生産性向上の取組も支援対象。また、価格転嫁に向けて専門家を派遣する。

県が誇る陶磁器産業を未来につないでいくための取組。

### 佐賀酒・酒米応援緊急パッケージ

主食用米の高騰により、佐賀酒の原料となる酒米との格差が逆転した。酒米の作付け・生産を維持するため、主食用米との販売額の価格差相当を支援する。

守り手認定制度（仮）を創設し、表彰も行う。酒米農家を大切に、感謝の気持ちを持ち続けたい。酒米生産の継続をお願いする。

そのほか、高温に強く収量が多い酒米の新品種開発を加速化。前年度からの蔵元への価格高騰分の支援を継続する。酒米の安定生産を守り、佐賀酒を守りたい。

### ソール・ド・九州 2026 の開催準備事業

九州地域戦略会議（九州の経済界と知事で構成）発の国際自転車ロードレース。

2026 年の第 4 回は、佐賀県で初開催。構想ルートは、波戸岬からスタート、ルート・グランブールを巡り、唐津の美しい場所を通り糸島へ。そして天神など都市部がゴール。調整の上、来月あたり発表の予定。予算化し、早目に準備を開始する。

福岡から唐津までの海のエリアと一緒に PR し、世界に打ち出したい。

### 世界の文化創造拠点 ARITA プロジェクト

観光庁・文化庁による新規事業「ACE プログラム」に、ARITA プロジェクトが九州では唯一採択された。国際的に日本の文化を売り込めるエリアとしての認定。5 か年で概算事業費 12 億円の大型事業。早めに取り組むため、今年は約 4,000 万円を事業化。

有田焼には、東洋の技術としてヨーロッパを席卷した歴史がある。そして今も有田は革新を続けている。新しいデザインを取り入れたり、外国人のデザイナーが集まったり（アーティストインレジデンス）。世界の文化創造拠点に十分なり得る可能性がある。エリア全体を通して、日本や有田の文化に触れながら、文化創造拠点・次世代文化都市へとつくり上げる取組。また、有田のすばらしさをツーリズムで全県に波及させることも特徴の一つ。

世界を相手にでき、かつ佐賀県ならではの事業。食と器のマリアージュ、茶室、ティーツーリズムなど、これまでの取組も生かし、世界に誇れる文化都市をつくりたい。

### 平和の想い・記憶継承事業

戦後 80 年が経ち、戦争のむごさと平和の尊さを引き継がなければならないと思う一方、昨今の世界情勢は厳しく、さきの大戦を知る人も減り、危機感を募らせている。

県主催の戦没者追悼式を戦後 30 年、50 年、70 年と行ってきた。本来は 90 年での実施になるが、継承は困難と判断し、80 年の今年、10 月 8 日に戦没者追悼式を実施する。合わせて、式典を行うという点ではなく、次世代につなぐ線にしたいと考えた。追悼式に参加する御遺族の肉声を拾いアーカイブ化する。それを若い世代が様々なところで活用・発信したり、戦跡訪問をしたりし、次世代につないでいく。

戦争は避けなければならないものと次世代に伝える事業。

#### その他 主なもの

国の基金や国庫を全額使う事業。

- ・ 病床機能の再編。
- ・ 病床数の適正化支援。
- ・ 脱炭素の面で、再生可能エネルギー、省エネ設備を導入する事業者を支援。